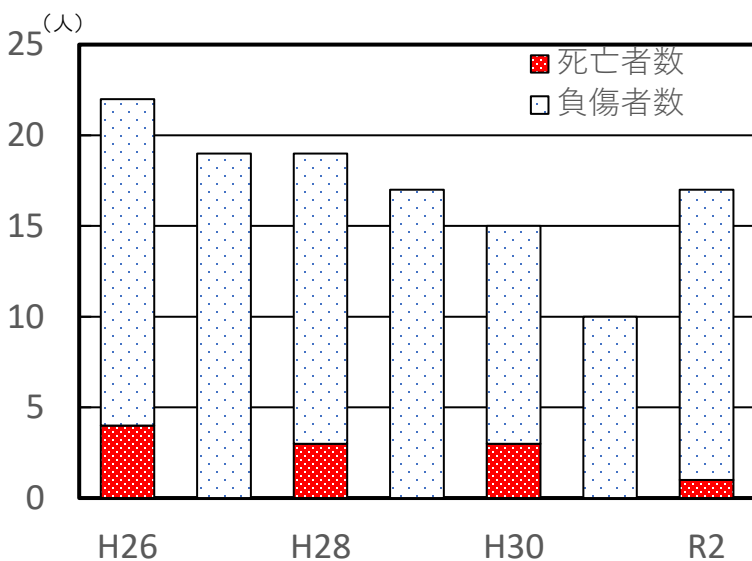


起こってからでは遅すぎる

感電死傷事故を防ぐのは「あなた」です！

○感電死傷事故の発生状況



感電・アーク等による死傷事故の推移
(出典：関東東北産業保安監督部)

<解説>

電気設備の工事や点検・調査、建物新築・改修・解体工事中等、感電死傷事故は毎年一定数発生しています。感電死傷事故でよくある事故要因は概ね以下の通りです。

- 準備不足 : KYミーティング 未実施
作業計画なし
- 手順不良 : 検電未実施、作業手順無視、
予定外作業、指示の不徹底
- 工具防具不良 : 工具や保護具・防具の欠陥・未使用
- 過失 : 技術・経験不足、心身状態の欠陥
被災者以外の人為的行動

「あの時しっかり見ていれば・やっていたら」では遅すぎます。

○感電死傷事故を無くすためには！！！！

①停電計画をしっかり立てましょう

余裕を持った作業時間、作業範囲、充電・停電範囲、時間の確認 等

②設備・作業者の安全対策は確実にいきましょう

充電部の表示、防護カバー、絶縁用保護具着用、短絡接地器具の使用 等

③設備・作業の管理を徹底しましょう

電気室の施錠管理、作業の事前確認、予定外作業の禁止 等

④マニュアル・手順書を整備しましょう

作業手順の作成、チェックリストによる手順の見落とし防止 等

⑤教育・訓練・安全意識の定着を図りましょう

定期的な安全教育と技能訓練の実施 等

設置者・管理者の皆様は**電気主任技術者等と協力し**、
感電事故防止に努めてください。

災害事例

「これくらい大丈夫だろう」「ちょっとだけ・・・」という
安易な気持ちから重大な事故が発生しています

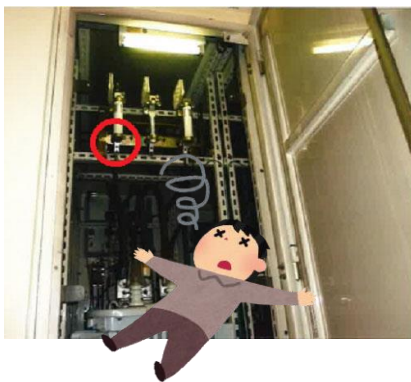
工事前事前調査（事業場職員）



絶縁不良の改修工事を依頼された工事会社が、事前調査のためキュービクルのアクリルパネルを取り外して写真撮影をした際、立会していた事業場職員が写真を撮ろうとキュービクル内に侵入し、充電部に接触して**感電**した。なお、電気主任技術者等には事前連絡をしていなかった。

対策：**キュービクルを開ける場合、電気主任技術者等に事前連絡し、その安全指示に従う。充電中にキュービクル内には入らない。**

空調設備の点検時（空調業者）



天井から雨漏りが生じたため、空調室外機が原因だと考えた設置者は、空調業者に雨漏り箇所の特定を依頼。依頼を受けた空調業者は、空調関係の設備に異常が見当たらなかったため、屋上にあるキュービクルの扉を開けて確認したところ、LBSの充電部に頭が触れて**感電**した。なお、電気主任技術者等には事前連絡はしていなかった。

対策：**キュービクルを開ける場合、電気主任技術者等に事前連絡し、その安全指示に従う。充電中にキュービクル内には入らない。**

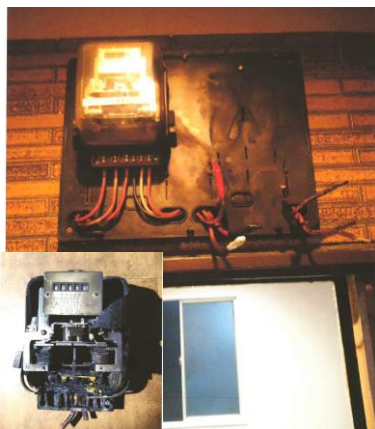
建物新築・改修・解体工事中（工事作業員）



被災者（塗装作業員）は建物の外壁塗装工事を請負い、作業に取り掛かった。充電部は屋上で手すりのすぐ外側にあり、絶縁テープの劣化により充電部が露出していた。設置者は被災者に対し高圧引込線付近の作業は危険性がある旨を注意喚起し、被災者も認識している模様だったが、被災者は作業中に誤って高圧充電部に触れて**感電死亡**した。

対策：**充電部近接作業を行う場合、電気主任技術者等に事前連絡し、その安全指示に従う。高圧電線近接作業では防護管取付け等を依頼する。充電部に触れる恐れがある場合、停電の上作業を行う。**

電気設備の工事時（内装工事作業員）



テナントビルの内装工事で作業員が充電状態のまま電力量計（子メーター）を取外そうとして短絡させ、アークにより**火傷**した。工事前、電気主任技術者等からは停電工事の指示を出していたが、作業員はその指示を無視して充電状態のまま作業。なお作業員は、工事に必要な資格を取得していなかった（無資格）。

対策：**電気工事に必要な資格の確認を徹底する。電気主任技術者等は工事前に停電を確認し作業させる。**